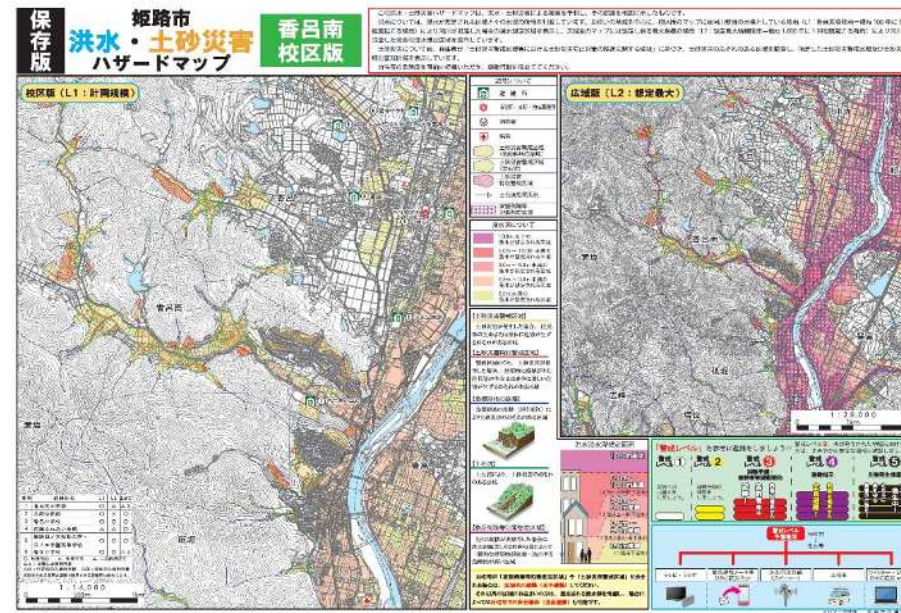


各機関の取組内容

○ハザードマップの更新・配布

国や県から示された想定最大規模（降雨・高潮）の浸水想定区域図を踏まえたハザードマップに更新した。また、県により指定された土砂災害特別警戒区域などもハザードマップに掲載し、令和2年度から令和3年度にかけて、市内全戸に配布した。



○地域巡回啓発事業

ハザードマップの更新・配布の機会を捉え、適切な避難行動を行うためには、事前に避難について検討していただくことが重要であることから、本市において作成している姫路市版携帯・災害避難カード「命のパスポート」も併せて活用していただけるよう、市内全地区において避難意識の向上を図る啓発事業を実施している。



取組を実施した効果、成果

- 各地区の地理的な特徴なども踏まえて、地域の方に避難意識の啓発を行うことができ、より具体的に避難行動について考えていただく機会となった。
- 「自らの命は自らが守る」、また「自分たちのまちは自分たちで守る」という自助、共助の重要性を再確認していただいた。

○要配慮者利用施設の避難確保計画作成の推進について
兵庫県と連携して、要配慮者利用施設の関係者を対象に、防災意識の啓発と避難確保計画の作成要領を説明



令和4年2月1日に、避難確保計画の説明会を実施し、79施設の施設関係者が説明会に参加した。



避難確保計画の概要

- 1. 避難確保計画とは**
☞水害や土砂災害が発生するおそれのある場合における要配慮者利用施設利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項を定めた計画
- 2. 根拠となる法律**
☞水防法、土砂災害防止法
- 3. 要配慮者利用施設の定義**
☞高齢者、障がいのある方、児童や乳幼児など防災上配慮を必要とする方が利用する施設
- 4. 計画作成の対象となる施設**
☞洪水浸水想定区域・土砂災害警戒区域内にある施設
- 5. 計画の作成者**
☞要配慮者利用施設の管理者または所有者
- 6. 避難確保計画に記載する事項**
☞防災体制、避難誘導、施設の整備、防災教育訓練の実施、自営水防部隊の業務（水防法に基づき自営水防部隊を置く場合）、その他利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な措置
- 7. 避難確保計画作成後の対応**
☞作成した避難確保計画を姫路市長へ報告
☞避難確保計画に基づき避難訓練を実施し、姫路市長へ報告

-1- 兵庫県

避難確保計画の作成方法

令和4年2月1日（火）

取組を実施した効果、成果

・防災意識が啓発され、避難確保計画作成や避難訓練の必要性についての理解を得ることができた。

○防災リーダーの育成
自主防災会長をサポートする地域の防災リーダーの育成を行う。



- 第1回 6月19日(土)
【講座】
- ・防災リーダーの役割
 - ・防災訓練の企画
- 第2回 7月24日(土)
【図上演習】
- ・避難所運営ゲームHUG
- 第3回 10月30日(土)
【実技訓練】
- ・防災資機材の取扱い

- 地域防災リーダーフォローアップ研修
6月26日(土)
避難所運営ゲームHUG
(ファシリテーターを養成)



取組を実施した効果、成果

- ・座学に加えて、避難所運営ゲームや資機材取扱い研修など実践的な研修を行い、地域で活動できるスキルを身に付けることでできた
- ・ひめじ防災リーダー会と連携し、実際に地域の訓練等で活躍している。

【宍粟市（ソフト対策）】 個別避難計画の作成

取組
番号 24・25
26・28

○防災と福祉の連携による個別避難計画作成促進事業を活用し、介護支援専門員や地域住民等と連携して個別避難計画を作成

今年度新規作成者数（見込）66人
（うち事業活用者 17人）



- ・防災訓練が行われる地域の避難行動要支援者に個別避難計画の主旨を説明。同意の取れた対象者の個別避難計画を作成した。
- ・作成した個別避難計画に問題ないかを確認するため、防災訓練当日などに実際に自宅から避難所までの避難訓練を実施した。また、訓練後には振り返りや勉強会も行った。

取組を実施した効果、成果

- ・計画作成や訓練を通じて、避難行動要支援者、支援者ともに普段気づいていなかった問題点を洗い出すことができた。
- ・参加した自治会役員などは、地域内における要配慮者への対応を改めて考える機会となった。



訓練終了後の勉強会

避難訓練の様子



○講師を招へいし、自治会（自主防災組織）に対する自主防災マップ作り講習会を開催

日時：令和3年12月5日
場所：生涯学習センター学遊館
参加人数：鳶沢地区7自治会19名



マップ作りの様子

①講師による説明

講師から昨今の激甚化傾向の災害について解説があった後、自主防災マップ作りの意義についても説明があった。ハザードマップにはない地域の災害特性を地図に盛り込み、地域で共有することが重要。

②マップ作り

自治会ごとにグループを作り、地域内の避難場所や川・水路の位置などを書き込んだ後、想定最大規模洪水の浸水区域や土砂災害警戒区域などを地図に書き込んだ。また、過去に地域で起こった災害や危険な場所なども地図に書き込んだ。

取組を実施した効果、成果

- ・グループで話し合いながらマップを作成するため、地域内の情報など意見交換しながら参加者同士で地域の特性について考察できる。
- ・想定最大規模洪水でのマップ作りであったため、参加者はこれまで以上に豪雨災害に対して危機感を持ってもらえた。



完成したマップについて説明する参加者

○想定最大規模洪水を加味したハザードマップを作成



①計画規模から想定最大規模へ変更

計画規模から想定最大規模へ変更したことによって、市内の浸水エリアが広く、また深くなったことにより市民の危機意識向上が期待される。

②地域版から全市が見れる冊子版へ変更

これまでは市域を14個に分けた1枚物の地域版を作成していたが、今回から市域すべてが確認できる冊子版へ変更した。市内であれば、自宅周辺のほか、学校や職場の周辺も確認できるようになった。

③市内約14,000世帯へ配布

各家庭1冊配布し、家庭内での防災対策に役立ててもらおう。



新しいハザードマップの表紙

取組を実施した効果、成果

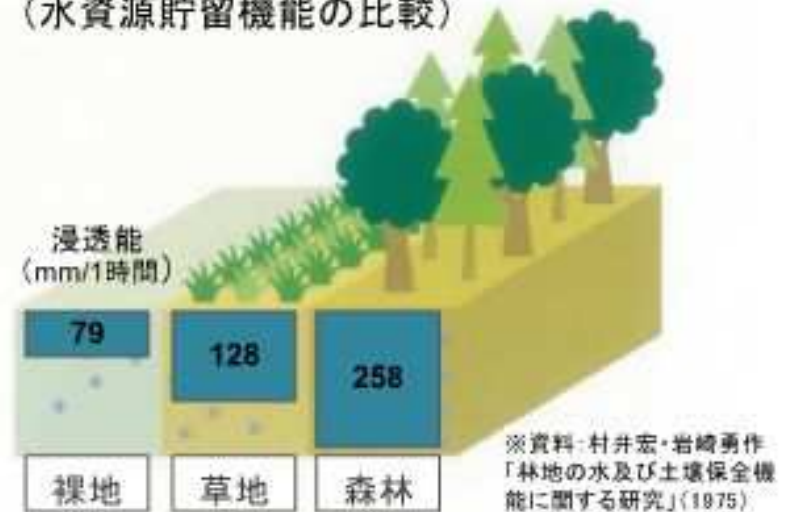
- ・1,000年に1度程度という最悪の想定での浸水区域が掲載されているため、これまで以上に市民の危機意識向上が見込まれる。

施策名：針葉樹林と広葉樹林の混交整備
成 果：気象災や土砂災害のおそれが高い高
齢人工林を部分伐採し、広葉樹林化
を実施した。



混交林の整備

【森林の水源涵養機能】
(水資源貯留機能の比較)



施策名：緊急防災林整備
成 果：下層植生が衰退した人工林内の危険
渓流やその流域斜面において、間伐
後の伐倒木を利用した簡易土留工や
簡易流木止め施設の設置等の整備を
実施した。



伐倒木の土留工

施策名：公有林整備
成 果：市内人工林の約7割が間伐未実施の
ため、林業事業者と連携し間伐など
の森林整備を実施した。



間伐後の山間部

施策名：雨水幹線整備

成果：宍粟市山崎町山田から同千本屋までの雨水幹線路を整備した。

L=155m

効果：雨水の適切な排水及び内水氾濫の防止



山田千本屋雨水幹線



施策名：田んぼダム

成果：実績総面積 約417ha
堰板配布数 1637枚

効果：貯留機能を有する水田に堰板を設置し、雨水の流出を抑制する。



田んぼに設置した
せき板

施策名：ため池の事前放流

成果：市内ため池64箇所を実施

効果：事前に水位を下げることで洪水発生を抑制する。



与泰寺池
洪水吐切りかき

● 豪雨による増水に対応するための水位調整

○兵庫県「ため池治水活用拡大促進事業」を利用し、ため池の治水利用に取り組む

（道谷池：たつの市新宮町篠首）

＜取組期間＞ 9月1日から10月31日まで

＜放流水位＞ 満水位から3m低い水位
（第一斜樋バルブの取水口の水位まで放流）

＜減水水量＞ 6,366.6 m^3



（大正池：たつの市揖保川町原）

＜取組期間＞ 9月1日から10月31日まで

＜放流水位＞ 満水位から0.4~0.6m低い水位

＜減水水量＞ 8736.8 m^3



取組を実施した効果、成果

- ◆ 事前放流により水位を調整することで、雨水貯留容量を確保し、河川の急激な増水を防ぐことができる。

● 田んぼダムの設置により、急激な増水を防ぐ

○従来型の田んぼダムとあわせて自動給水排栓等を設置する「スマート田んぼダム」を設置

スマート田んぼダム実証事業「金剛山地区」



田んぼダムの設置状況①



田んぼダムの設置状況②



取組を実施した効果、成果

- ◆ 排水流量の抑制により下流域の河川の急激な増水を防ぐことができる。
- ◆ 実施総面積：452ha、せき板配布数：2012枚（令和3年度末時点）

【たつの市】 マイ・タイムライン講座の開催

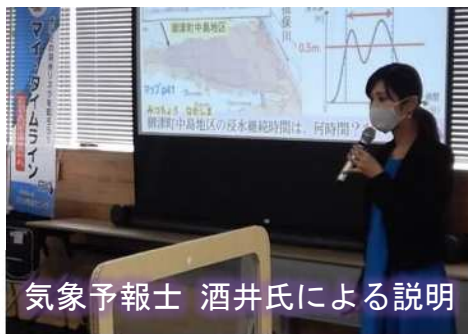
項目番号 7・10・24
29・30

● 気象予報士を講師に招き、マイ・タイムライン講座を開催

○国土交通省姫路河川国道事務所と連携し「マイ・タイムライン講座」を開催

- 日 時：令和3年10月16日（土）
10:00～12:00
- 場 所：たつの市役所新館4F大会議室
- 参加者：一般市民 計39名

- 【次第】
1. 開会
 2. たつの市防災マップ等の説明
 3. マイ・タイムライン作成講座
 4. 閉会



- 【参加者の感想】
- ・マイ・タイムラインは事前防災に対して大変有効だと思った（50代男性）
 - ・マイ・タイムラインを使うことで家族間で意志統一が出来、有効だと思った（70代男性）

新聞やTwitterなど複数のメディアと連携して、マイ・タイムライン講座を開催。

取組を実施した効果、成果

◆ 逃げ遅れゼロに向け、避難判断のサポートツールとなるマイ・タイムラインの作成方法を住民に周知した。

● 講師を招き、ひょうご防災リーダーに対し、フォローアップ講座を実施

○播磨科学公園都市定住自立圏構成市町と連携し「フォローアップ講座」を実施

- 日 時：令和4年3月13日（日）
9：30～12：00
- 場 所：佐用町役場西館2階防災会議室
- 参加者：一般市民 計20名

【次第】

1. 開会
2. 防災講演
「地域みんなで生き残ろう～がんばり過ぎない防災～」
講師 檜垣 彰子 氏
3. ワークショップ 「マイ避難カードを作成しよう！」
4. 閉会



取組を実施した効果、成果

- ◆ ひょうご防災リーダーや自主防災組織の役員が地域のハザードを確認できたことに加え、避難判断の目安となるマイ避難カードを作成することにより、住民の防災意識の向上につながった。

● 防災出前講座や地域連携防災訓練事業を実施

○兵庫県「マイ避難カード」作成支援事業を活用し、防災出前講座及び講師派遣事業を実施

○日 時：令和3年7月24日（土） 10：00～12：00 ○場 所：龍野中央公民館 ○参加者：一般市民 計30名	1. 地域の安全確保行動の進め方 （兵庫県立大学 木村玲欧教授） 2. マイ避難カードの作成 3. 龍野地区防災計画の説明
○日 時：令和3年10月24日（日） 10：00～12：00 ○場 所：グリーンハイツ公民館 ○参加者：一般市民 計20名	1. みんなでつくる地区防災計画 （兵庫県立大学 阪本真由美教授） 2. マイ避難カードの作成
○日 時：令和3年11月13日（土） 9：30～12：00 ○場 所：門前公民館 ○参加者：一般市民 計35名	1. みんなでつくる地区防災計画 （兵庫県立大学 阪本真由美教授） 2. マイ避難カードの作成



阪本教授による説明



阪本教授による説明



計画の検討



計画の検討



マイ避難カードの作成

取組を実施した効果、成果

◆ 地区防災計画策定の必要性の周知と避難判断のサポートツールとなるマイ避難カードを作成し、住民の防災意識の向上につながった。

● 防災出前講座や地域連携防災訓練事業を実施

○小学校区の自治会役員を対象に地域連携防災訓練事業を実施

○日 時：令和4年3月5日（土）
9：30～11：20

○場 所：龍野小学校体育館
○参加者：一般市民 計52名

【次第】

1. 開会
2. 防災ビデオ視聴
3. 防災備蓄備品紹介
4. 防災食試食



取組を実施した効果、成果

- ◆ 災害への備えと発災時の対応について、知識を習得するとともに、避難所開設に必要な資器材の確認等を行い、自主防災組織の防災力の向上が図られた。

【太子町】ハード整備による洪水リスクの低減

取組番号 5

○田んぼダム事業

田んぼが元々持っている水を貯める機能を利用し、雨天時の河川流量を低減するため、町内8自治会に堰板を配布した。



実施総面積：約73ha
堰板配付数：295枚
導入地区：阿曾、岩見構上、広坂、常全、馬場、岩見構下、田中、北之町

○ため池活用事業

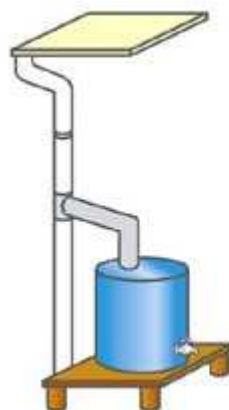
大雨前にため池の水を放流し、水位を下げることで貯留容量を確保して一時的に雨水を貯めることで、河川への流量を削減し、洪水リスクの低減を図っている。



数量：34基 総貯留量385,400m³

○雨水貯留施設設置助成金事業

雨天時の道路側溝等への雨水流量の削減・調整を図ること、貯留した雨水を災害時の防火用水・生活用水として再利用することを目的として、雨水を貯めるタンク及び付属設備に対して助成している。

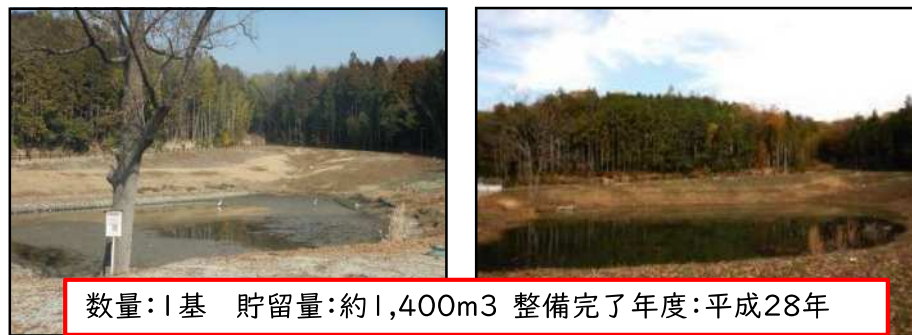


対象住宅	公共下水道の処理区域の住宅(アパート等借家含む)
助成金額	設置費用の1/2(限度額：3万) ※雨水タンク容量100ℓ以上のみ
助成対象	雨水タンク本体、附属品、送料、人件費相当額(業者委託)

導入実績：34基
(平成26年度～令和4年1月現在)

○公園雨水貯留施設整備事業

雨天時に雨水を貯留することで、河川への流量を削減し、洪水リスク・浸水被害の低減を図っている。



数量：1基 貯留量：約1,400m³ 整備完了年度：平成28年

【太子町】防災備蓄倉庫の建設

取組
番号 4

○太子町防災備蓄倉庫の建設

地域防災拠点である太子町総合公園内に防災備蓄倉庫を建設

- ・災害発生時に町内の避難所に物資を供給するための拠点として整備した。
- ・食料や飲料水、段ボールベッドやパーテーション等の資機材を備蓄し、国や県、他自治体等からの応援物資を集配する施設としての機能を有する。
- ・避難所としての機能を有する体験学習施設を併設している。



取組を実施した効果、成果

- ・災害時に必要な物資をより多く備蓄することができた。
- ・地域防災拠点として整備をすることで、応援物資の集配がスムーズに行うことができるようになった。

【太子町】防災訓練の実施

取組
番号 28

○太子町防災訓練の実施

太子町における災害発生を想定し、自主防災組織や地域住民、行政及び防災関係機関の参加により、実践的な訓練を実施



地域住民による避難訓練

○訓練内容

- ・避難訓練
 - ・浸水歩行訓練
 - ・土のう設置訓練
 - ・災害対策本部設置訓練
 - ・応急救護訓練
- 等



浸水歩行訓練

○新型コロナウイルス感染症対応避難所開設運営訓練の実施

新型コロナウイルス感染症に対応した適切な避難所の開設及び運営を実施できるように、避難所運営を担当する職員を対象とした研修を実施

取組を実施した効果、成果

- ・防災意識が啓発され、事前の訓練の必要性について理解を得ることができた。
- ・職員が新型コロナウイルス感染症を始めとした感染症に対する知識及びそれに対応した避難所の開設・運営する知識を身に着けた。



新型コロナ対応避難所開設訓練



新型コロナ対応避難所運営訓練

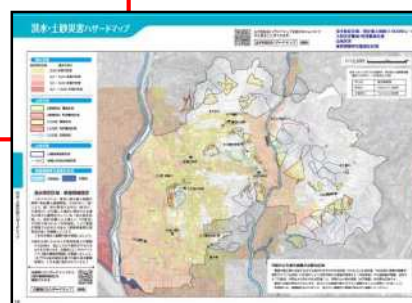
【太子町】防災ハザードマップの作製

取組
番号 10

○想定最大規模の降雨に対応したハザードマップを作製



- ・想定最大規模の降雨による浸水想定区域を掲載
想定最大規模の浸水想定区域の更新に伴い、同時に土砂災害特別警戒区域や地震の被害想定についても掲載した。
- ・防災基礎情報を掲載
浸水想定区域の掲載だけではなく、防災についての基礎知識や防災情報取得方法等について住民にわかりやすく周知した。
- ・マイ避難カードの掲載
『太子町防災ハザードマップ』1冊に災害時に必要な情報を集約するため、裏表紙に兵庫県の『マイ避難カード』を掲載した。
- ・町内の全世帯(約13,000世帯)へ配布
各家庭や新規転入者に1冊ずつ配布を行った。



取組を実施した効果、成果

- ・太子町における災害リスクを住民に周知でき、避難意識や防災意識の啓発を行うことができた。
- ・ハザード情報のみならず、防災の基礎情報や避難場所、防災情報の取得情報、マイ避難カード等を掲載することで、災害時に確認すべき事項を太子町防災ハザードマップに集約することができた。

【太子町】防災協定の締結

取組
番号 14

○避難場所の確保、物資の確保等を目的として民間事業者と協定を締結

〈事例〉

協定名 : 災害時における施設利用等に関する協定
締結日 : 令和4年1月18日
締結先 : 西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部
網干総合車両所
協定内容: JR西日本網干総合車両所を災害時の避難所とすることについて定めた協定

協定名 : 災害時における物資の供給等に関する協定
締結日 : 令和3年4月22日
締結先 : 本田冷蔵株式会社
協定内容: 氷製品の供給及びワクチン等医療用医薬品など冷凍冷蔵を必要とする物品を保管することについて定めた協定



災害時における施設利用等に関する協定調印式



災害時における物資の供給等に関する協定調印式

取組を実施した効果、成果

- ・地域企業と協同して、災害時に備えることができた。
- ・事前の取り決めを行っておくことで、災害時のスムーズな対応を行うための体制が整備された。

災害協定の締結状況

避難所: 東芝姫路工場、網干自動車教習所、
ホテルサンシャイン青山 等
物資支援: マックスバリュ、西尾レントオール、
LPガス協会西播東支部 等

【太子町】マイ避難カードの作成促進

取組
番号 29・30

○マイ避難カード作成ワークショップの実施(RI.9.4実施)



参加者:石海南地区首長防災組織
(岩見構上、岩見構下、吉福、太子ニュータウン、沖代、
米田、塚森、相坂団地、竹広南 計9地区)

・兵庫県と協同し、マイ避難カード作成支援モデル事業として実施
浸水想定区域(0.5m~3.0m)内に位置する自治会役員から参加者を募り、各々の自治会ごとのマイ避難カードを作成し、地域住民に展開した。



○防災講演会の実施

・年に一度、講師を招き、地域住民及び地域防災団体等に対して講演会を開催している。
令和3年度の講演会では、マイ避難カードの有効性や作成方法等について講演会を開催した。



取組を実施した効果、成果

・実際にマイ避難カードの作成を行うことで、太子町における災害を住民に周知でき、避難意識や防災意識、事前準備の重要性を啓発できた。

【太子町】個別避難計画の作成の推進

取組
番号 25・26

○災害時避難行動要支援者等に関する連絡会を実施

災害時避難行動要支援者ごとに避難場所、避難経路等を定めた個別避難計画の作成に向けての取組



- ・自治会毎に想定される災害や災害時避難行動要支援者登録制度、個別避難計画について説明を実施している。
- ・各自治会内の災害時避難行動要支援者の情報の共有や避難経路の検討をすすめ、自治会内の危険場所の聞き取り調査を実施している。



参加者
自治会役員、民生委員・児童委員、
社会福祉協議会、太子町企画政策
課(防災担当)、太子町高年介護課
(高年福祉担当)

取組を実施した効果、成果

- ・災害時避難行動要支援者の避難計画の重要性について、地域住民の理解を深めた。
- ・地域の避難行動要支援者について考えることで、自助、共助の重要性を再確認した。

【山陽電気鉄道(株) 自然災害対策の取り組み】

令和3年度の取り組み

取組
番号 19

(国土交通省 運輸防災マネジメント指針より)

被害想定の見積りと ハード・ソフト両面の対策

(ハザードマップ等の活用)

事業継続計画※に基づく タイムライン

※緊急事態対策実施要項、災害体制 防災要綱・要領

利用者への情報発信 (運行情報・計画運休 等)

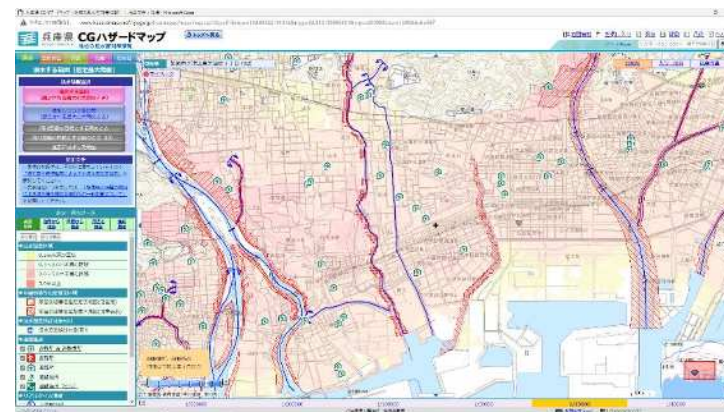
マニュアル化、教育・訓練

(基本の習得と実践的な訓練)

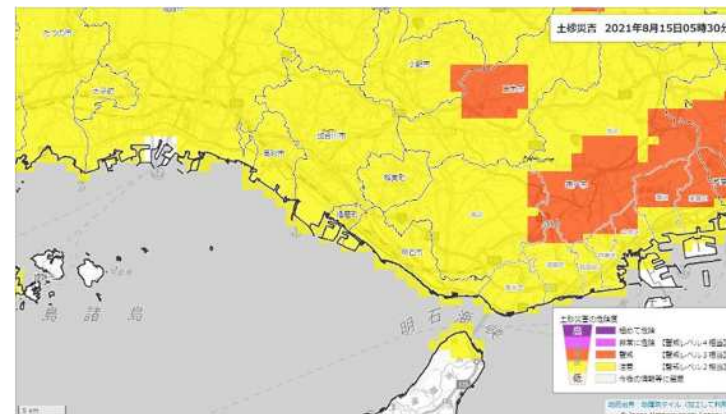
各行政機関との連携

(連携関係の構築、連絡網の整備)

地震・津波・土砂災害における基準の見直し
⇒出水期までに河川氾濫対策を検討中
(浸水箇所におけるお客さま・車両の避難)



【キキクルの活用】土砂災害の運行基準
土砂災害警戒情報発令時に警戒区域を
含むメッシュがレベル4となっている場合、
徐行・運転見合わせ等の規制を行う



顕著な大雨に関する情報

取組番号 17 18
20

令和3年6月17日
から提供開始

線状降水帯がもたらす降り続く顕著な大雨への注意喚起

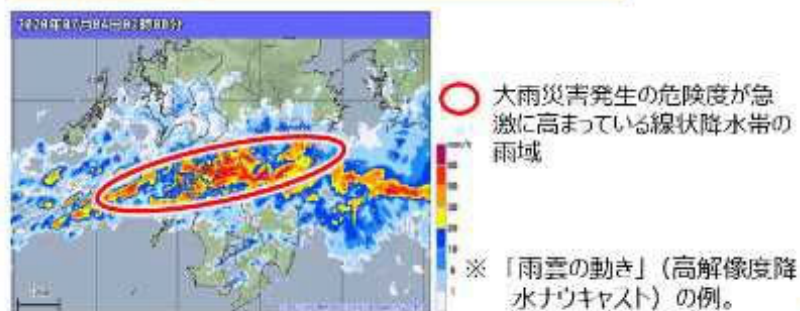
- 線状降水帯の事前予測が難しい中、レーダー等による観測で、線状降水帯が発生していることを検知した際に情報を発表
- 大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説

顕著な大雨に関する情報の例

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

顕著な大雨に関する情報を補足する図情報の例



最新の科学的知見により解析・予測技術を向上し、徐々に精度を上げていく

令和4年以降の改善

- 半日前から線状降水帯等による大雨となる可能性についての情報を提供 (令和4年)
- 次期気象衛星への最新技術の導入やスーパーコンピュータの高性能化等を通じて、監視・予測技術の精度を向上
- 半日前から線状降水帯に伴う集中豪雨を高い確率で予測し、これに伴う災害発生の危険度を面的に提供 (令和12年までに)

